口唇裂の成因に関する疫学的研究
― 口唇裂の披裂の程度と性差について ―
（分担研究：先天異常のモニタリングおよび対策に関する研究）

夏目長門*，河合　幹*

要約　353名の口唇裂単独の患者のうち，披裂パターン分類の対象とし得た283名について披裂の程度と性について関連を解析した。その結果，口唇裂の披裂の程度と性にはある一定の規則性があることが明らかになった。

見出し語：口唇裂，性差，披裂パターン

研究目的

口唇・口蓋裂には多くの疫学的研究がなされてきたが，本疾発症のpathegenic factorとの関連について疫学的方法で追求しえた報告は少ない。

そこで我々は口唇・口蓋裂を披裂の程度別に分け，これらについて種々の要因との関連を追求している。

我々のこのモデルは，口唇・口蓋裂を17部位に分けたものである。この方法を用いてこれまでに，口蓋裂では披裂の程度の強いものでは著しく女性の頻度が高いが，口蓋垂裂のような披裂の程度の弱いものでは性差は認められないことなどを報告した。

本研究では，口唇裂を披裂の程度別に分け，各披裂の程度に性との関連が認められるかどうかを明らかにするため本研究を行った。

研究方法

調査対象は，当科で資料を保存している353名のうち後述の披裂パターンに分類しえた283名を対象とした。

方法は，前報と同様に図1の如き口腔顔面石膏模型を図2の如くモデル化してコンピューターで解析できるようにコード化を行うとともに披裂の程度と性差について解析した。

結果ならびに考察

両側の完全口唇裂では，男性52.9%，女性47.1%で性差はほとんど認められないが，左右赤唇部のみの口唇裂（L 1またはL 4）では男性が著しく頻度が高く，右側（L 4）が73.3%，　左側（L 1）が64.3%である。

左側，右側各々の披裂の程度と性についてみると左側，右側ともに披裂の程度が強くなるに従い，性差がわずかになる。即ち，右側26.7%，30.8%，35.3%，44.4%，左側35.7%，44.2%，50.0%，56.0%と，女性の比率がましていた。

また，左右差をみると，同じ披裂の程度であれば，右側（26.7%）：左側35.7%），右側（30.8%）：左側（44.2%），右側（35.3%）：左側（50.0%），右側（44.4%）：左側（56.0%）のように，常に左側の女性の比率が高いことが明らかになり本症の発症に性に関わる因子が強く関与している可能性が示唆された。

* 愛知学院大学歯学部第二口腔外科教室
(The Second Department of Oral and Maxillofacial surgery, School of dentistry, Aichi-Gakuin University)

図1　口腔顔面石膏模型

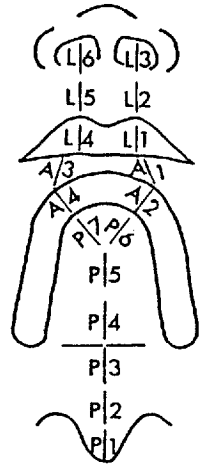

図2　裂型モデルおよびコード名

表　口唇裂の披裂の程度と性差

		15 5.3%	26 9.2%	17 6.0%	36 12.7%	17 6.0%	75 26.5%	26 9.2%	43 15.2%	28 9.9%
sex	male	73.3%	69.2%	64.7%	55.6%	52.9%	44.0%	50.0%	55.8%	64.3%
	female	26.7%	30.8%	35.3%	44.4%	47.1%	56.0%	50.0%	44.2%	35.7%
	Total	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

文　　献

1) Natsume,N., Suzuki,T., and Kawai,T.: Clinical analysis of the cleft patterns of lip and palate. Cong. Anom. 24: 75-82, 1984.

2) Natsume,N., EFFECT OF SEXUAL DIFFERENCES ON THE DEVELOPMENT OF CLEFT PALATE IN THE HUMAN, Plast. Reconstr. Surg. 85 (5): 854-855, 1989.

Abstract

Epidemiological Investigation of Cleft Lip Patterns and Sexual Difference

Nagato Natsume*, Tsuyoshi Kawai*

Sexual difference in severity of the cleft lip was studied in 283 patients. An appreciable correlation was found between the severity of cleft. The results of our current investigations suggested close correlation between the pathogenic factors and sex in the above patients with cleft lip.

検索用テキスト　OCR（光学的文字認識）ソフト使用
論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります

要約　353名の口唇裂単独の患者のうち，披裂パターン分類の対象とし得た283名について披裂の程度と性について関連を解析した。その結果，口唇裂の披裂の程度と性にはある一定の規則性があることが明らかになった。